

指定調査研究総合助成事業

ヒラメ・カレイ類種苗生産試験

(要 約)

高橋 邦夫・小倉大二郎

1 ヒラメ

- 1) 水槽内自然採卵と人工採卵を試み、水槽内での産卵は5日間観察されたがすべて未受精卵であり、受精卵は人工採卵によって養成親魚♀7尾のうち2尾から得たにすぎなかった。
- 2) ふ化適温を14.0℃、生海水温(16.8℃)、22.0℃の3区分で検討した結果、生海水温区が最もよく、ふ化適温は16~18℃で、ほぼその時期の海面水温に等しい。
- 3) 仔魚期前半の飼育適温は、生海水温(平均16.5℃)、22.4℃、26.2℃の3区分で比較したところ、生海水温区が最もよい歩留で56.9%、次いで22.4℃区、15.9%、26.2℃区、5.9%と高温ほど悪い傾向が認められた。予備的に14℃も2回試みたがほとんど成長せずに斃死した。仔魚初期の飼育適温は16~18℃内外で、その時期の海面水温にほぼ等しいとみられる。
- 4) ニフルプラジンによる長期薬浴、短期間薬浴、餌料薬浴、対照区の4区分で比較した結果、歩留は61.6%、51.2%、33.6%、27.2%と薬浴に関係が深いほど良い値を示した。ただし、長期薬浴区では黒子がやや多く、薬害と考えられる面もあるのでさらに検討を要する。
- 5) 底棲直後から40mmサイズまでの減耗は0~3.7%で、前年度の結果もほぼ等しく、非常に小さいものであると考えられる。
- 6) 同一親魚から同時に採卵ふ化したものでも、白化個体の出現率が4.3~50.0%と差を生じたことから、白化個体の出現要因として、後天的な影響が大きいと考えられる。

2 マガレイ

野外8トン水槽飼育では、底棲直前から30mmサイズまでの歩留は30~40%で室内小型水槽に比較して低い値であった。

詳細は、昭和50年度 指定調査研究総合助成事業 ヒラメ・カレイ類種苗生産試験報告書(昭和51年2月)青森県水産増殖センターに発表した。